HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	首都性について
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Citation	都市問題, 51(2), 198-214
Issue Date	1960-02
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77328
Type	article
Note	D016都市社会学原理　増補編関係
File Information	D016_01_Part3.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

首都性について

鈴木栄太郎
（東洋大学教授・社会学）

1 前書

私が札幌に住んでいた頃に得た都市についての理解は主として地方都市における事実の上に構築されたものではあつたが，東京在住の都市研究者達の中には，私の主張する都市の原理だけでは東京の生活は十分に説明されえないという人のあることを知つた。けれども東京の生活においても札幌におけるとまつたく同様なことがいえることを，東京の社会構造や生活構造における観察を試みた私の札幌での友人達がいつていることもまた事実である。

東京の都市研究者の右の不平も私の都市の原理が東京の生活にも妥当することを見出したという右の観察も，いずれも一理あることと私は思つている。私の「都市社会原理」は都市一般についての原理であつて，それ以上ではない。近時都市に関しては多方面な研究が乱立し，いろいろの見解がそれぞれの立場から主張され，都市の理解をますます困難ならしめる傾向があるので，都市一般に通ずる原則的なものを特に厳格にとり扱うことの必要を認めて書いたのがあの「原理」である。

私の「都市社会学原理」は都市一般に通ずる原理についてのべているのであるが，東京は一般の都市である以上に特殊ないろいろの個性的な属性を兼ね備えている。都市一般の基本的な性格についていえば札幌も東京も同一の構成をなし，同一の原理によつて動いていることはたしかである。東京における付加的属性についていえば都市一般の原理は無力に近い。東京にあるいろいろの付加的な属性というのは，第1に，巨大都市圏内の中心大都市であるということであり，第2に，首都であるということである。

東京と大阪と，あるいは名古屋にも通ずる巨大都市圏内の大都市の特性については私は「原理」の中でも少しく論及したのであるが，日本にただ1つしかない首都の特性について

はほとんど何も述べていない。であるから東京の都市研究者が私の都市の理解が東京を十分に説明しえないというのは当然である。しかしそうであるとともに，東京だけを見ても都市一般を理解することがほとんど不可能であるということもまた確かである。

2　一般都市における原理と東京

「都市社会学原理」における私の都市社会の理解は主として次の３つの点に集中している。第１は都市の社会的機能の点，第２は都市の社会構造の点，第３は都市の生活構造の点である。

私は去年の秋札幌より東京に移り住みまだ１年を経過したばかりで，東京での落ちついた生活と東京の社会生活の観察はやつと緒についたばかりではあるが，地方都市より得た私の都市一般に関する私の理解はここでも誤まつてはいないことを認めるとともに，東京の社会の社会学的分析に重要な点はどこにあるかについての，ある程度の見通しと自らに課するこれからの研究課題の幾つかは見出している。

先にのべた３つの点の中の一番理解に容易である生活構造に関する原理についても，東京の場合は地方の中小都市における場合とは一見しただけでは質的に異つたものと思われるくらい複雑化していることは明白である。今私が住んでいる地点は地図で見ると世田ケ谷区の境界から１町もはなれていないところで，狛江町という都内郡部の町の内にある。ここでは私が生活の必要のために直接関係している私のいわゆる機関は次のようにさまざまのところにある。汽車便の貨物を配達する駅は登戸駅（神奈川県川崎市内），電燈の取り扱いは府中の配電所，日々の郵便物は調布市の郵便局，電話は砧の交換局，最寄の電車駅は喜多見駅（世田谷区内），税金は立川税務署，最寄の交番は喜多見駅前にあるが所轄の交番は狛江駅前にある。所管の役場は狛江町役場，都心に通勤する場合のターミナルは新宿駅，タクシーでのターミナルは渋谷駅，副都心として利用するところは新宿，日々の生活物資は喜多見駅前商店街，土木工事には成城の建材店，溝ノ口の土建屋，病院には祖師ケ谷大蔵の病院，新宿の病院，新聞にはさんである広告ビラは次の地域内の商店やサービス機関のものである。小田急沿線では東は下北沢，西は神奈川県原町田，南武線では溝ノ口・府中，バス利用のための国領・調布。

以上のように私の生活の関係するところは八方に散在している。小じんまりした中小都市では見られない混雑である。けれども私が関係しているこれらのものは，やはりここでも１つ１つ皆私のいわゆる機関であることには変りなく，また機関はいずれも，いずれか

34

の集落社会に所属し，私との関係も私の側から見れば線の形であるが機関の側から見れば地域すなわち関与圏の内の一点と見られうるものである。私はこのことについては巨大都市圏内における五重の社会圏の重積錯輳の圏としてすでにのべていたところである。これ程まで小きざみの社会圏の重積があろうとは思つていなかつたけれども，巨大都市圏は都市圏の重積的統一として理解すべきものと論じた私の理解はここでも原則的には誤まつていないようである。

生活構造に関する限りでは東京は巨大都市圏内の大都市として地方中小都市の理解から飛びはなれた質的に異なる性格のものとは考えられないようである。同様な巨大都市圏を形成していると思われる大阪およびその段階に近づいていると思われる名古屋についても同様なことはいいうるのであろうと思う。巨大都市圏は近接する大中小都市の社会的非組織的協力の統一圏であつて具体的には近接する大中小各都市の私のいわゆる都市社会圏の重積的統一といいうるものであつて，何程かの機能的分化が見られるものと考えている。

けれども東京の理解のためには東京の巨大都市圏としての性格は忘れてはならないけれども，首都性について直接考えて見ようとしている今の場合には，この点はこれ以上に立ち入る必要はない。首都は巨大都市圏を形成することも，また国内最大の都市であことるも，しかり大都市または中都市であることすらも必要な要件ではないようである。

私の都市社会理論における第3の点については以上のように考えることができるように思うのであるけれども，第2の点，すなわち都市の社会構造の問題，および第1の都市の機能に関する問題では都市一般に関する私の理論は東京の社会生活の理解のためには補修すべき点を残しているように思われる。それらの補修すべき点がことごとく首都一般の性格に関係するものであるとは考えられないけれども，少なくとも日本の社会文化における日本の首都性に関係して理解しうるところは，はなはだ多いように思われる。首都にも首都一般の性格があるとともに日本の首都の個性も有している。

3　社会構造における東京の特性と社会的機能における東京の特性

社会構造において東京が都市一般と同様に世帯と職場を支柱としていることには異論はありえない。世帯と職場を支柱としているということは，都市における人々の社会関係は最も多く世帯と職場の上に重積しているということを予想せしめるものである。組織的な機能的集団の形において理解しうる集団も世帯と職場の上に重積していると見ることができる。かつて私は日本の農村においては3種の社会地区が日本の農村生活の基礎的な構造

をなすものと認めた。それらの3つの地区の上に農民の社会関係が重積していることを認めたからである。そしてその中の第2社会地区と私が名づけた地区の上にある，いろいろの社会関係の統一的全体に名づけて自然村といつたのである。都市における社会関係の累積は地域の上にではなく世帯と職域の上に見出される。

都市住民の社会関係は最も多く世帯と職場の上に重積している，ということは都市住民の生活は主として世帯と職場において営なまれているということである。

都市では生業の時の心とその他の時の心とは少なくとも社会関係においては質的に異つたものとなり，そのことが農村と都市の社会関係の性格的区別を生ずる最も根源的なものとなつているとも考えられる。生業の座にある場合の人の心の活動とその他の場合の人の心の活動とは質的に異つたものが見出されるので，私は前者を生業活動と呼び後者を生活活動と呼んで両者を厳に区別して考えている。ゆえに私は生業生活の場としての職場とその他の余暇的な生活拡充のための生活の場とも区別する必要を認めている。

東京においても社会構造に関する右のごとき原則が基本的には存していることは明白である。けれども東京では私のいわゆる生活拡充集団と職場との別が明確でないものも多く，生活拡充集団がそのまま職場となつている場合が多い。地方での余業娯楽が東京では生業となつている。職場と生活拡充集団すなわち余暇的集団とが区別し難い場合が多い。職業化したばかりのなまなましい生業が東京には見られる。

私のいわゆる結節的機関をなしている都市的生業は大部分かつて村落生活においては余暇的余業的活動であつたものに相違なく，それが集落の都市化に平行して漸次生業に化したのであろうという推定は可能であろう。今，日本文化の頂点に立つている東京では私らの眼前にていろいろの新らしい生業が発生成長しつつある。

以上の事実が観察されうるとしても，それと首都性とはどんな関係にあるのであろうか。次にのべるように首都は国民の新文化の創作工場であると思われるが，この工場における新製品の工作には余業より生業化したばかりの者の活動または余暇的集団より職場となつたばかりのものの活動が参加している場合も少なくないように思われるのである。

次に，私の都市機能論に関しては私は東京の首都性を明らかにするためには，都市一般に関する理論のほかに何を加うべきであるか。首都性を明らかにする要素は主としてここに集まつているようである。

私の理解するところでは，およそ都市は国民社会における文化的社会的交流の結節としての機能を営んでいる社会的機関の集まつているところである。かくのごとき結節的機関

は国民生活のあらゆる方面に応じて存しているものである。国民の統治に関する活動が全国的に斉一化するための社会的交流における結節の役を演じている大小さまざまの官設的機関もかくのごとき結節的機関の1種である。商店は物資が商品として全国に過不足なく流布するための役を演じている結節としての社会的機関であると見ることができる。映画館は娯楽文化が全国にゆきわたるための機関の1つである。国民生活の事実上の斉一化のためはにその他さまざまの結節的機関が存し，それらの結節的機関が集まつている集落社会が都市と呼ばれているものである。都市は結節的機関の集まつているところであるという命題は地方都市についていいうると同様に首都についてもいいうる。

首都をして首都たらしめているものは国家主権の所在地として理解されているのが常のようであるが，しかし統治に関する機関も一般の都市に集まつている結節的機関の一種に過ぎない。太平洋戦争の前頃中国の主権所在地は北平より南京へ，南京より重慶に移り，それがそのまま首都の移動を意味していた。そこでは首都は明らかに統治の機関だけによつて意味づけられていた。首都がその国最大の都市であるということも，しかり都市であるということすらも考えられてはいない。国際的にも国内的にも権利義務の主体としての国家主権の位置を示す必要だけからいえばそれで十分なのであろう。しかし社会現象のありのままを観察する社会学者の眼にはそれだけでは首都の特性を十分に規定しているものとは思えない。法制上の規定がどうであろうとも，事実存している現象の中に看取しうる傾向性を確認しうる場合も多いからである。

国民社会内の文化的社会的交流における流動の方向は統治に関する現象では，首都より発して国の果ての津々浦々まで余すところなくあまねく及ぶのが原則であり，また国の果ての津々浦々により，ことごとく国の中心としての首都に集まつてくる社会的流動の現象が統治の現象においては明白に認められる。けれども政治以外の方面の現象はこの政治上の流れの方向に必ずしも平行または一致する必要はないのではないのか。経済上の動きが同様に首都を起点として全国各地より集まつたり散じたりする必要はないのではないのか。教育も宗教も政治上の路線の上のみに従う必要はないようにも考えられる。首都は国家主権の所在地ということは政治の世界においてのみ意味のあることであつて，それが国民の産業活動やマス=コミの活動にそのまま活動の基本的型となる必然性はないはずである。しかし現象のありのままの中にはその必然性が認められるなら，そこにこそ社会学的眼光に映ずる首都性の姿が現われる。

37

4　私の首都東京観察の未熟な筋書

私は次のような未熟な筋書をゲスとして東京の首都性を観察している。

1.　国民統治の流れが首都より発し首都に帰る路線は国民生活のほとんどあらゆる方面においてもそのままに用いられている。経済活動においてもマス＝コミ活動においてもしかり，娯楽文化においてすらもしかりである。

2.　東京に集まるものはすべて素材であり，東京より流出するものはすべて文化の新製品である。

3.　国民文化新製品製作工場としての東京にこそ，日本における首都性は看取される。

私は次のような断片的な観察から上記のようなゲスを立てるに至つたのである。

5　東京に集まつている組織体

東京に集まつているのは統治の中央組織だけではない。

1.　銀行会社における本社

2.　商店における本店

3.　スポーツや各種のいわゆる文化団体における本部，各種の組合の本部

4.　ヤクザ的仲間の大親分

全国的な組織をもつた，そしてその中にやや階層的序位も認められ支配関係をも含んでいるような，何かの方面の生活活動の中心的最高位にある威信をもつ全国でただ1つの中央権威と認められているものは，ほとんどみな東京に集まつているように思われる。全国にその流れをくむ人のある生花の社中の組織ですらもそうである。各種のスポーツはその各種目ごとに，また鮨屋の組合ですら東京にその中央的機関をもつている。

それらの組織における支配の組織または統制の組織は行政組織における場合とほぼ同様であつて東京を中心とし，道府県庁所在の都市に支部があり，市町村役場の所在する都市に出張所があり，その下の部落ごとに班があるというような形式の大体の方針はみな同様である。参加している者の人員の数などの都合で本部より5段の組織をもつ場合もあれば4段または3段となる場合はあつても組織形式は大体に同様である。

統治機関の各序位のものの所在する都市は，そのまま都市の最高級より最下級までの序位を示している。大都市より中都市へ，中都市より小都市へ，小都市より田舎町へ，その逆はあり得ない。すなわち県庁の所在都市が村役場の所在都市より小さいことはない。どこの

38

地方についても大体にいいうることは，行政官庁の所在する都市はその管轄地域内で最大の都市であるということである。所管する範域が広いもの程上級の都市に所在している。全国の道府県庁の所在する都市はその道府県内でいずれも最大の都市であるということは，日本における統治文化のひとつの特性を示しているとともに日本の都市の特性にも大いに関係あるものでもあるように思われる。

しからば日本における最高の統治機関のある東京は当然に日本最大の都市であり，国民生活のあらゆる部門の中央機関がみな東京に集まつていることもまた当然だと思われる。日本での首都は日本一の大都市であつて，そこには国民生活のあらゆる方面の中心的機関が皆集まつているということは日本の首都の特性といいうるのであろう。

6　結節的機関の２つの型

都市は社会的交流の結節的機関の集まつているところであるという場合の結節的機関には２つの型が考えられる。第１の型は社会的交流の集散の処理機関である。そこでは集散される交流の内容は，たんに分類整理されるだけである。第２の型も社会的交流がそこで集散されることは同様であるが，そこでは集まつてくるものと散つてゆくものは同一のものではない。集まるものは素材であり散つて行くものは製品である。第１の型を商業型というなら第２の型は工業型というべきである。

地方中小都市にも第１の型の機関もあれば第２の型の機関もある。けれどもそこでは明らかに第１の型が主である。首都にも第１の型の機関がないわけではないが，そこでは明らかに第２の型が圧倒的である。地方の工業都市は第２の型の機関の優勢な都市であるが，そこで加工されるものは商品である。首都で加工されるものは商品だけではなく，さまざまの新しい国民文化である。

さまざまの国民文化がどのようにして首都で作り出されるか。これははなはだ困難な問題である。都市社会学者達のこれらの周到な実証的研究のみがそれに正しく答えてくれるであろう。

昔からも田舎町にある作り酒屋ですら，その地方から集めた原料や用具や労働力に技術の力や企業力，財力が合力することによつて経営されると同様に，いずれの商品の製造にもいろいろの種類の力の合力が必要である。

東京には国民生活のあらゆる方面における日本最高の，また最有力の団体や機関が集まつている。それらの組織体のさまざまの形における合力が日本の新らしい文化をつぎつぎ

に創り出していると思われるが，この国民文化工作場としての東京についてはどんなことが考えられるか。

7　国民文化新製品生産工場としての東京

全国各地から日毎夜毎東京に集まつてくるものは，人も物も心もみんな素材であつて，出てゆくものは皆新製品であると，そういえないことはないようである。東京で造り上げられる新製品は次のようなさまざまのものであろう。それは国民文化の新らしい型だということができる。

1. 国民の新らしい法律や制度や方針
2. 国民の経済活動における新らしい組織，新らしい商品
3. 新技術，新製造品
4. 新教育方針，新宗教方針
5. 衣食住の新傾向
6. 学問，芸術，スポーツ，芸能等における新らしい一級作品の認定
7. 新らしい思想，人生観，社会観，新らしい倫理
8. 革新的勢力と保守的勢力との釣合の新らしい比率

東京で製造されるものがそれらの新製品であることは認めうるとしても，それがどんな工程をへて製造されるかはとても簡単には理解されえない。けれどもこの工作にこそ東京の首都性は最も多く現われていると思われる。この工作を正しく読みとるためには私らはいろいろの場面を観察しなければならぬ。問題は次のようなところにもひそんでいるように思われる。

8　ある1日（昭和34年12月18日）の東京の1つの新聞（朝日新聞）に現われた東京での色々の会合の中，日本の文化新製品に関係あるもの

第1面の今日の予定という見出しの内，会議，集会という項の中には，▽閣議，▽政府，与党連絡会議，▽国立国際会館建設等連絡協議会が示され，記事には昨日の議会の模様や日韓非公式会談の結果が伝えられている。（以上第1面）次に第2面には，建設省が今日国土開発縦貫自動車道建設審議会に対する調査報告の内容を示している。次に補助金制度研究懇談会が伝えられている。これは大蔵省が補助金行政の実態調査を依頼していた国民経済研究協会理事長某氏等民間有識者12人の報告のための会合である。以上は大体政府の

40

活動自体に関係しているものである。

次に「安保論争をどう見るか」という大きな見出しのもとに東大の西洋史の教授と評論家某氏との会談がその新聞社の2人の部長の司会で開かれた時の話の次第を紹介している（第4～9面略）

第10面には，教育課程審議会が高校の教科目における地理学の存廃の問題をとり上げた過日の会議の模様を伝えている。また新送りがなに反対する国語問題協議会は昨日の理事会で国語正常化の運動をおし進めるとの宣言を発表したことを紹介している。また全労会議が「黒ダイヤ募金」運動を始めることを昨日の執行委員会で決めたと伝えている。また日本婦人平和協会，日本基督教婦人矯風会，全国地域婦人団体連絡協議会，東京キリスト教女子青年会，日本婦人有権者同盟の五団体は昨日全国都道府県議会議長会・全国市議会議長会に対して退職年金制度反対の陳情書を出したと報じている。次に通産省内で開かれる競輪審議会は今日新委員による初会議があるが，この会議によつて競輪の存否を決定する重要な会議であるとしている。新委員は通産次官・東京都知事・評論家・東京家裁調停委員・自治庁財務局長・元通産次官・警察庁保安局長・通産省重工業局長・元参議院議員・通産省官房長・文部省体育局長・日本アマチュア自転車競技連盟会会長・元代議士・日本体育協会会長・元代議士・時事通信取締役・評論家・日本自転車振興会会長・経済評論家・日本競輪選手会会長といつた肩書のある人々である。

次に第11面には「芸術祭賞きまる」という大きな見出しのもとに，各部門における本年度の受賞者または会とその作品の名が示されている。芸術祭を受けたのは次の8部門である。

1演劇部門，2音楽部門，3舞踊部門，4能楽部門，5映画部門，6ラジオ部門，7テレビ部門，8大衆芸能部門。この受賞者の決定は，日本芸術院会館で昨日開かれた本年度の芸術祭執行委員会総会で決定されたものである。右の8部門に属する人々には，これが本年度の公認された日本一の決定である。

以上私は今日（昭和34年12月18日）の朝日新聞朝刊に現われた各種の会合に関する記事を拾い上げて見たのである。私は特に選んでこの1日を取りあげたのではない。おそらく日毎の新聞がこのような記事をかかげているのであろう。全国民の生活に関係ある会合がいかに多く東京で行なわれているかということ，それらの会合の中，政府に結びついているものが多いということ，国民文化の新らしい型または雛型がはつきりと決定されてゆくということ，雛型の決定には色々の異なつた専門や立場の東京在住の人々の合力が見られること，などを教えているようである。

9　日本文化新製品製作場

大角力の千秋楽の日にその場所での優勝力士も決定した後に，優勝力士や殊勲賞力士，特技賞力士などの表賞の式が彼らが連日争つて来たその同じ土俵の上で行なわれる。日本における角力界の次の場所までの最高の栄誉がそこで決定されたのである。そのすぐ後に同じ土俵の上で角力界に新らしくはいつた恐らくみな10代の若い未来の力士達の披露の式がある。そのヒョロヒョロした体骼も風貌も世の普通の若者達とあまり変りないこの青年達がみなそれぞれの部屋で訓練されると５年の後10年の後には優勝の横綱も彼らの内から現われるに相違ないのである。彼らがどんな経路をとつて角力部屋に入るようになつたか，その事情は私はよく知らないけれども，彼らが全国各地から集まつてきた人達であるということ，また彼らが十代の青年としては今どんなに実力において優れた人達であつても日本角力協会所属のどこかの部屋に弟子入りして専心訓練されるのでなければ実力もあまり進んでゆかなかろうし，また横綱の格式も日本一の力士としての栄誉を日本中に公認されることもまつたくできないということはたしかである。日本一の力士を養成するのも完成するのも日本にただ1つある日本角力協会という組織体である。今では角力協会という名で呼ばれているが，江戸時代からあつた江戸の大角力の伝統をそのままにうけついでいるものであろう。それは自他ともにゆるす日本一の角力に関する中央組織体である。この組織体をよそにしては日本では角力界の最高の栄誉もおそらく最高の実力も有しえないのである。

日本一を決定するさまざまの組織と機会を考えてみるがよい。ラジオの「のど自慢」は全国の歌の名手を毎年１人づつ選定している。各地での予選をへて最後に東京の放送局で全国一を決定して表賞式がある。各地での何段もの予選をへて最後に日本一を決定する制度は各種のスポーツや芸能のほかにバスガールの技術にも珠算の技術にも用いられている。最後の決定を行なう場所はほとんどみな東京である。設備の都合上他の地で行なう場合もあるが，決定の主体となる機関はみな東京にある。美人コンクール，赤ちやんのコンクールにでさえみな同様である。

全国的な組織を持つさまざまのコンクールの主体となるものは，放送局である場合各種の団体連合会の場合，中央官庁内の一部局に指導奨励のために設けられた何々会とか，関係する商工業者の同業組合内に組織されたその場限りの組織等さまざまの場合があるであろう。いずれもみな東京にその本拠はある。

また全国的に有名な雑誌が年々定期的に，または臨時に募集する懸賞の論文や創作は全

42

国の青年達の血を湧かしているもので，その選に入ることが文壇への登竜門となることは事実少なくない。そこで選に入つた作品はその年の日本一として全国の青年達の前に展示される。その場合その日本一を決定する主体はたんなる雑誌社または書店にすぎない。しかしみな東京にある。

レコード会社が選出する歌手は一朝にして日本一の名歌手となる。そんなレコード会社もみな東京にある。

スポーツの世界においても芸能の世界においても，さらに学問の世界，産業の世界，政治の世界，宗教や教育の世界等のいずれにおいてもその内がまたいくつかの部門に分れ，さらにその各々が細分し，人の生活活動の直接の専門の最後の部分はみな狭い範囲となるのであるが，しかしその狭い範囲内にも優劣や強弱は自から有し，人の浮沈興亡も常でなく流行も存しているけれども，その狭い範囲内においては自から全国的に認められている権威者もあり権威ある組織も厳在しているのが常である。その各々の世界での権威ある考え方，権威ある行い方の公認されているものもある。すなわちその狭い世界内に日本最高と認められている雛型もあり，一級の新製品もある。今日のようにマス=コミの発達した時代にはまた交通その他の生活文化の進んだ時代には雛型の全国に普及するのも早く，またつぎつぎに更新することも早い。権威ある組織が東京にあるので権威ある雛型がそこから時には年毎に時には月毎に日毎に全国に配布されることになり，東京の中心的機能はいよいよ多くなり，またそれだけ威光が加わつている。

日本棋院を中心とする碁の世界もまつたく同じのようである。日本角力協会も日本棋院もともに東京にある。古くからの複雑な伝統をもつたそれらの日本の中心的組織体が東京に集まつているばかりでなく，古い芸道の家元が東京に本拠をもつていると同様に，新らしいいろいろの芸道の家元もまた東京にある。家元の制度も組織体の一種である。

スポーツの各界の全国的組織の中心がみな東京にあることは周知の事実である。科学の各分野の中心的機関がみな東京に事務的中央機関をもつていることも明白である。労働組合の連合組織の中心機関もまた東京にある。政党の中心がみな東京にあることは国家統治の中心機関が東京にあるために当然に東京にあることが予想されるが，財閥の中心的活動の本拠も学界の中心的機関もスポーツの中心的機関もみな東京に集まらなければならぬ理由はどこにあるのか。

東京には何もかも日本一が集まつている。東京タワーや日本一の大劇場や大ホテル，大キャバレー，大料理店，そして日本一のボス一家。

東京の大角力の組織体がその場所ごとに日本一の力士を決定しているように日本人の生活文化の各方面における日本一の組織体ごとに年々歳々日本一の一級品を送り出し，それは全国に響きわたり，その時の決定された全国最高文化として全国民の生活をリードしている。

東京は全国各地より素材が集まつてくる最後の集積場であつて，国民生活の各方面をリードする新製品を全国に送り出す文化製作場であるといえないことはなかろう。このような傾向はいずれの国の首都についても多少の別はあるとしても，いえることではあるが，しかし日本の場合はその最もいちじるしい一例ではないのかと思うのである。

10　国民文化製作場としての東京における新文化の施設および過程

国民生活のあらゆる方面において新しい型が間断なく東京で製作され，そこから全国に送り出されていることはたしかであるが，それがどんな施設の中で，またどんな工程をへて行なわれているかについての研究は容易にできる業ではない。日本における首都性の研究はこの困難な研究を通じてのみ進め得るものと思われる。

私はこの国民の新文化工作の施設や工程に関して組織的にいいうるものは今は何もない。けれども，どんな人の意見や行動や作品が日本での新らしい権威ある考え方または行い方または作品すなわち新文化として認められているかを，一般国民が学びとるたしかな場合の１つは，国内で最も権威あると認められている各分野のそれぞれの最高の機関において最高のものと明白に選定した場合である。かくのごとき場合は決定的にただちに全国でのその方面の最高のものと国民一般は認めることができる。かくのごとき各分野の最高の機関がみな東京にあつて東京で選定されることも事実であるが，それが東京にあることにどんな必然性があるか，首都にあることにどんな必然性が存するのであるか。文化の個々のものについて厳密に観察することが必要である。そこにも研究の余白は残つている。

各分野の最高の権威ある機関とはいかなるものであるか。またかくのごとき機関における選定には具体的に何々があるか。都市社会学者はまずそれに答えなければならぬ。

11　東京に集まつている各方面の中央機関は事実上その方面における支配の中心

国民生活における新文化が東京で工作散布される今１つの場合を考えることができる。東京に集まつているいずれの方面の中央的機関も，その方面の活動のたんなる連絡の中心，組織上の中心ではなく，その方面の活動に対する統制の中心の役を演ずるばかりでなく，事

44

実上多くの場合支配命令の実権を有するに至つている場合が多いのだと思われる。東京の大会社の重役が地方にあるその支店に現われた場合には，その支店では彼を殿様のように遇していることは誰も知つていることである。それは会社や官庁だけについていえることではない。自由な団体の組織における中央的機関ですら，事実上たんなる連絡の中心ではなく，地方にある下部団体に対し指示し支配し命令することのあるのはこれまた周知の事実である。

地方支庁や支店や支部の活動がその場合に東京の本庁や本店や本部の指示命令を遵奉しつつ営まれてゆくのは当然過ぎるほど当然と考えられている。

東京には国民生活の各方面の本部があり，その本部よりは間断なくなすべきことの指示命令が全国各地方の支部に流布されてゆく。その方面の新らしい文化の雛型が厳選されて示される場合などのように，生やさしい場合もあるが，東京の地方支配の現実はもつと厳しい形で間断なく行なわれている。

地方の支部・支店・支局などが東京の中央本部・本店・本局に対し，その支配命令に従わなかつた場合に受ける反作用のいかに厳しいものであるかは，地方在動の経験あるものの誰もが知つているところである。国民社会における封建的支配の階層的秩序は，今日の日本では首都を頂点とする集落社会間の支配における序列の上に，最大の構造を示しているといつても過言ではない。

12　東京より文化の新製品を全国に散布するものとしてのマス=コミの機能

マス=コミの活動が全国に文化の雛型を一様に散布していることもまた明白な事実である。いかなる種類のマス=コミのメディアもことごとくその中心的機関はみな東京にある。これらのメディアより全国に日毎に送り出されるものは国民生活のあらゆる方面にわたり新しい文化の型を教え国民の生活のあり方について指導的な役割を演じている。

東京の地方支配の現象の中におけるマス=コミの機能を見落すことはできぬ。マス=コミの現象は国民に結合の場を供しているとともに，分離の場をも与えていることもいちじしいのであるから，国民に対する単純な斉一化を結果しているものとは考えられないけれども，中央が地方に対する関係は一様である。

今日国民がその時々の政治の動きに関して知りうる機会はもつぱらマス=コミを通じてである。そのマス=コミに対して国民は事実上無力である。マス=コミの活動のいかんによつて1億総愚ともなり総賢ともなる。その全国的中央機関はみな東京にある。マス=コミの

中央機関と政治の中央機関との間にどんな関係があるかないか，それは私は知らないが，それがいずれも東京にあることだけはたしかである。こんな大きな2つの力のほんのわずかのからみ合いも国民の運命をいろいろにひきずつている。それも首都における新文化工作過程に見られる一つの場面として見過すべきではない。

このようなことは，ほかにもいろいろ考えることができる。

全国から集まる小綱が何本かの中綱となり，その中綱が結びついている大綱の一本はたえば財界の綱であり，大綱のまたの一本はたとえば政界の綱である。東京にはこんな大綱の何本かが集まつているが，大綱と大綱との間に右のようなからみ合いが見られるのも国民文化工作場としての東京での工作過程の1つの場面であろう。政界の大綱にからみついている大綱は財界の大綱だけではなく，もつといろいろの大綱がやはり政界の大綱にはからんでいるのかも知れぬ。日本の首都では特に政界の大綱にからんでいる大綱の数が多いのかも知れぬ。

首都における文化工作過程の百態の中に大綱のからみ合いに関する場面もまた見過さるべきではない。

13 東京と政治機関

東京が首都であることは国家主権の所在地であることである。具体的には政府の所在地であることである。国民に対する国家統治の流れが中央政府より地方官庁に，そしてそこよりその管区内の各地の自治体にいたる流れの存することははなはだ合理的である。すでに述べたように日本ではそこにある官庁の上司下司の関係がそのままその集落社会の上級下級の関係を現わしているのが当然と思われている。統治の流れは少なくとも日本では常に上級都市より漸次下級都市に及んでいるといえる。例外は明白な特殊の理由によるものである。

けれども統治という点だけから考えればその国の最高の統治機関の存する都市がその国の最大の都市である必要はない。現にその実例はある。近代社会の内に成立した新興の国家にはそんな首都が多いように思われる。根から民主的な割り切つた社会制度がそうさせるのであろう。道府県庁の所在地がわが国のようにほとんどみなそろつてその道府県内の最大の都市である例は他にも存するとしても，日本はそのいちじるしいものの一例であろう。厳格にいえば日本でも46都道府県の内3つの県（群馬・山口・三重）だけが1位でない。しかし県内第4位の都市山口に県庁があつて第1位の下関に存しない理由は明白なよ

うに思われる。わが国の統治の性格はここにもよく現われているように思われる。

昔の洛陽・長安の都のように国民を威圧する威風を誇示することは日本でも為政者の遠い過去からの癖である。官尊民卑の風は明治以後の官僚のみによつてできたのではないのかも知れぬところに，日本における統治文化の特性もあるように思われる。そこに日本の首都の特性の根源もあるように思われる。

統治の流れが上より下へ国の中央より発してさい果ての村に達していることは当然であるが，全国中心的な近代的機関である放送局も新聞社も大銀行も大美術館もみな政府の膝元近くにある。東京には日本最高の統治機関が位置しているが，それをとりまいてさまざまの日本一の機関が雲集している。日本統治文化においてはそれは必然の現象なのであろう。いずれの国の首都にもこの傾向は多かれ少なかれ存していることとは思うけれども，日本ではそれは特にいちじるしいのではないのか。

国民生活のあらゆる側面を統制しようとする傾向の強い統治文化の存する国では国民生活のあらゆる側面の中心的機関がみな国家統治の中心的機関すなわち政府の周辺に雲集するのは当然のことであろう。6・3・3の教育制度は合衆国からわが国に伝えられ，今では全国画一に厳格にこの制度が実施されているが，原産地合衆国の6・3・3は州によつてまちまちであるという。日本のような国柄の国家の首都は無制限に増大する。

14　ブラジルの新首都ブラジリヤ

まだ地図の上にも現われていないブラジリヤという都市は，ブラジルの国土のほぼ中央にある無人の高原にブラジルの新首都として建設されつつある新都市である。灌木や石原の荒野を拓いて一挙にして100万の大都市を構築しようとするのである。現在建設は着々と進み全工事の3分の1ないし2分の1を経過しているとのことである。

まつたくの白紙の上に一挙にして築造される都市計画であるから，自由奔放な理想的な都市計画が実施されつつある。街路や用水プール，官庁街，住宅街，教会等の配置はその一端を知ることができるが，何よりも驚異に感ぜられるのは，ここに見られるいろいろの建造物がアブストラクトの造形美を存分に現わしている近代的感覚の豊かさである。

今建築を大部分完了している大統領官邸や国会議事堂や教会やアパートなどの建築の様式は世界のどこにもまだ建設されたことのないような斬新奇抜なものばかりである。ドンブリを据えたようなもの，伏せたようなもの，巻き紙を立てたようなものなどが今まつたく人煙のない荒原につぎつぎに立ちならびつつあるのである。今では飛行機とトラックの

みが他地との交通機関である。

ブラジリヤは，まつたく新らしい国の新らしい首都らしい新らしい形式の首都である。古い形のものや社会関係が新らしい合理性や新らしい美の原理によつて見事に整理されている。何もかもさつぱりした新首都のように思われる。不合理な因習や無用の回顧趣味は片影もなさそうである。

私はかつて日本における村落内の社会関係と都市内の社会関係の相違を次のような点について論じたことがある。日本の村落では古い恩や怨みの関係が個人の間にも家と家との間にも清算されないままに残つている場合が多いので，割り切つた合理性によつて人と人との関係を整理することは容易でない。これに対して都市では，交易の原理が人と人との間の関係をその場その場で完了している場合が多いので，あと味が残ることなくさつぱりした関係が可能である。

世界の首都の内，ブラジリヤを都市的な首都の典型と見るなら，日本の首都は村落的な首都の典型またはそれに近いのではあるまいか。私がそう思うのは，日本の首都東京にある政治の全国中心的組織体はもちろんのこと，東京にある無数の全国中心的組織体はいずれもみなその内に複雑な派閥やネチネチした情義的関係に充ちているように思われるからである。またブラジリヤにはどんな組織体が予想されているか知らないが，あれほど思い切つた新鮮な首都計画のできるところにネチッコイ社会関係があるとは思えないからである。

15　多元的国家論と首都

多元的国家論学者の考えによれば国家も特定の目的のためにできている団体の内の１つである。国民生活の平安と発展を守るために外部や内部にある非協力的な力に対して不断に防衛することを任務としている団体である。国民社会を成している人間の生活の中には実現しようとするさまざまの目的のためにさまざまの団体が存する。国家はその一つであるというのである。

この多元的国家論の考え方には異論はありうる。けれどもこの考え方によつて首都について考えるなら，政治の首都があるように，芸術の首都もスポーツの首都も学問の首都も宗教の首都も娯楽の首都も産業の首都もみな別々にありうるし，それらのものはそれぞれ独立した目的のために存するのであるから，みなそれぞれ各個特有の目的に応じたところに存在するのが最も望ましい。各種の首都がみな政治の首都の上に重なつて存する必要は少しもない。そう考えることには確かに一応の理由は存している。

東京にはあらゆる首都が重積している。重積していない首都のある国家は事実存している。東京のように何もかもの首都がみな東京に集まつている例も多いのであろうが，それにはやはり理解しうる理由もあることであろう。私は今その理由をここで簡単に論断しようなどとは思いもよらぬことであるとともに多元論的国家観の見方に従つて簡単に首都の分散を論じようとも思わない。

けれども今東京が現に困惑している無制限の人口増大現象に対する１つの根本的方策として，右の多元論的国家観の考え方を援用して今東京に集まつている多数の首都の内の移動の困難の最も少ない１つまたは２つを他の適当な都市に移すという計画はけつして無謀なものではあるまいと思うのである。新興の国家ブラジルの新興の首都建設の計画に見られる大胆さはなくとも，１つまたは２つの首都を他に移させるくらいの勇気は国家百年の大計には無用ではあるまい。

百歩しりぞいてスポーツの都を他に移すということだけでも余りに困難が大であるなら，せめてスポーツの内の１種か２種の都だけを他の都市に移すことくらいの程度は可能であるに相違ない。

細菌の群落はしばしば自からの排泄物の堆積の内に埋没して死滅するという。何か教えるものがあるようである。

ターミナルの研究

——ターミナル及びその沿線奥地の発達と動向——

西川由造著

著者はさきに「都市交通の趨勢」「大都市と都心地」などいくつかの都市交通に関する資料をまとめておられるが，このたびターミナルの研究を冊子にまとめられた。大都市の人口郊外分散傾向はいちじるしい勢いで進行しており，これら分散人口の大半は都心への通勤人口に転化している。したがつて交通のターミナルにおける雑沓はますます激しさを増しているようである。これが都市交通の，つの大きな問題となつているわけである。このような状況において帝都高速度交通営団から業務資料として刊行されたこの冊子は研究者にとつてよい参考となろう。東京のターミナルにおける交通に関する豊富な資料に若干大阪のデータを参考として添えてあるが，ヒンターランドの開発の歴史的趨勢と合わせて交通量の動態をよく解説してある。

（昭和34年11月・B5判・謄写・139頁・非売品・帝都高速度交通営団運輸部）